

府高退教通信

NO.239

発行 大阪府立高等学校
退職教職員会
〒543-0021 大阪府高教内
府教育会館7F
大阪府高教内
天王寺区東高津町七一十一

TEL 090-1227-5142 (末光)
FAX 06-6768-1675

歴史的な大阪市住民投票の勝利！ 排除・分断の維新政治終焉のはじまり！

末光章浩（府高退教幹事長）

「大阪市を廃止し、特別区を設置する」という無謀極まる提案が二度にわたって否決された。嬉しい限りである。天を突く喜びである。同時に反対69万2996票（得票率50.63%）、賛成67万5829票（得票率49.37%）、差は1万7167票と、まことに激しい闘いであった。

「賛成」と「反対」の差が10ポイントから9月末には5.1ポイントに縮まり、「生まれ育った大阪市をつぶすな！」「反対から賛成に回った公明党は恥を知れ！」「市民サー



ビスは大きく後退する」「メリットばかりの一方的情報ばかり流すな！」などの呼びかけが砂に染み入る水のように、市民の中にどんどん浸透していった。

今回の投票行動で特徴的なことが三点ある。一点目は投票率（62.5%）が5年前と比べ4.5ポイント下がったが、19年参議院選挙の50%と比べても12ポイントほど高く、とりわけ無党派層の6割が「反対」票を投じたこと。二点目は公明党票（参院比例17万票）の半数が「反対」に投じたこと。三点目は十代・二十代の若者の中では賛否が拮抗、15年住民投票と比べると「賛成」が低下したことである。

大退教としても、この機会に、府にたいして、国に少人数学級実施と教職員の大幅増員を含む教育諸条件改善を強く働きかけること、府独自の少人数学級実施、正規教職員の増員、特別支援学校の増設、私学助成の大幅増にとりくむことなどを求めるアピール運動を実施することにしました。

33単位退教代表者の共同アピール文書に賛同される方の名前を集約して、マスコミでの発表、各自治体の首長・教育委員会・議会などへの申し入れを行います。5年前の「9条守れ！アピール」と同様、賛同者数2500名が目標です。

すでに各単位退教では創意工夫をこらして集約が進められています。私たちも多数の賛同によって運動の成功に寄与したいものです。

アピール文は11月通信に同封していますので、ご覧ください。

賛同の確認は同封している葉書での返信かメールでの返信をおねがいます。

メール送信先：末光幹事長宛
aki-sue@jcom.zaq.ne.jp
締め切りは12月11日（金）までとさせていただきます。

少人数学級を子どもたちにプレゼントするために 共同アピールに是非賛同を！

森田敏彦（成城工定）

新型コロナウイルス感染危機の下、3ヶ月の臨時休校とその後の学校再開をへて、今、少人数学級実現への機運が高まっています。9月には、新型コロナウイルスをふまえた小中高校の学びのあり方について討議する政府の教育再生実行会議が少人数学級推進を要請する「中間答申」をまとめ、文科省も来年度予算案概算要求に公立小中学校での少人数学級実現のための予算を、金額を明示しない「事項要求」として組み込みました。

また中教審初等中等教育分科会は10月に少人数編成の検討を盛り込んだ「中間まとめ」を出し、その後の関係団体からの聞き取りでは、全教が、教職員定数の抜本的改善、少人数学級実現を要望したのをはじめ、全国の小学校校長会やPTA協議会、市長会・町村長会なども、感染症対策やきめ細かな指導実現に少人数学級が必須と訴えました。

デジタル化に問題をすり替える動きがあることを警戒しなければなりません。大きな流れとしては、子どもたちの命と健康を守って、一人ひとりにゆきとどいた教育を行い、教職員の長時間過密労働を解消するため、少人数学級の実施と教職員の大幅増を求める声が従来の枠をこえてひろがっています。

住民投票勝利が国政にも計り知れない貢献となったこと、無数の市民が「勝利」のために草の根で奮闘したことに確信をもつとともに、投票後、またもや維新が「行政の広域化を図るため、府市統合を議会で検討」「以前に公明党が提案した市内24区を総合区として8区とする案を検討」などと投票結果を踏みにじる提案を行っていることに怒りを覚える。



泉大津市長選挙に出馬します

畠田博司（久米田）

私は1945年大阪市に生まれ、西区で育ちました。自身の信条である「国防軍1970年泉大津高校に赴任。すぐに府高教に加入し首としての天皇」「社会福祉の見直し」「強い指導者」てきました。同時に家庭をのとおりに市政を進めたので持ち、わが子を育てる中で、

12月13日投票の市長選挙、泉大津の市民運動を作り、市民団体は立候補擁立に努めるも実らず、とうとう自身の出馬となりました。2期目の現職に対し、後期高齢者の「新人」。もう、1周遅れの戦いです。しかし、1周遅れの戦いですが、決起して選手連を作ってくれました。選対にも入りた

田高校を経て退職後泉大津に戻ってきたような感じでしたが、あれよあれよという間に市民運動の長に据えられてしまいました。子ども医療費助成・市立病院を守る会・社会保障推進協議会などです。実った運動もありましたが、なかなか成果の出ないこともありまし

2度目の住民投票を闘って

笹岡優光（茨田）

8年前、市民の立場に立つ市長が生まれたのですが、2期目の選挙では体制が整わず、私たち市民団体が「自主支援」となるなかで敗れ、36歳の新市長が誕生しました。当初は爪を隠し

今回の住民投票で、私たちは維新の大阪府廃止という野望を打ち破り、2度目にわたってこの大阪府を守



キバをむき出した

山岸 稔（桜塚定）

り抜きました。そしてこの勝利の喜びは日増しに大きくなっています。もしあの時、維新に破れていれば、今頃、どのようなことになっているかを思えば、推して知るべしでしょう。私たちが勝利が逆コースを許さず、歴史を前に推し進めたことは間違いありません。

昨年、知事市長選挙、統一地方選挙での維新の圧勝、公明党の賛成、事前の調査での10ポイントの差など、5年前と違って私たちが置かれていた状況は大変厳しいもので、私自身、今回は勝利できないのではないかと内心思っていました。

9月以降、重苦しい気持ちで、宣伝活動に参加しました。しかし投票日1週間前から、街の雰囲気は劇的に変わってきていることに気付きました。マイク宣伝で路地裏作戦をしていると、出会う人、出会う人が「反対や」「頑張つてや」「反対に入れてきたで」などの声をかけてくれたり、手を振ってくれたりなど、5年前よりも反応がよく、この闘いが政党や党派を超えた闘いであることに確信を持ちました。

そして11月1日の投票日には、退教メンバーのAさん、Sさん、私の3人がマイク宣伝での路地裏作戦をしていると、投票案内状を持つ高齢者の方が反対票を入れるために投票所がどこにあるかを尋ねてきたり、自宅に公明党の大型ポスターを貼っている女性の方が「反対に入れたで」と言ってくれたりなど大変励みさせられ、夕方遅くまで活動することができました。

「自助」考

浅海文雄 (教育センター附属)

高校卒業の前に受験した大学の国語の問題、スマイルズ『セルフヘルプ』の翻訳者と邦題への問いのあと、関連する「西洋のことわざを答えよ」ときた。ちよつと答え、「天は自ら助くる者を助く」と解答用紙に記入した。

それから50年、9月14日の日記に次のように書いた。「自民党総裁選、自助となえる人物が当選、中村正直『西国立志編』、明治に逆戻りか」

身分制のしがらみから抜け出ようとする明治の青年が、進取の気持ちで新たな世界に乗り出したその気概は理解できる。「身を立て、名をあげ、やよ励めよ」である。

その一方で「インド以下の賃金」を強いられていた労働者たちがいた。1897年、アメリカ帰りの高野房太郎は、職工に呼びかけ、奮起を促した。

「諸君の前途は多望なり、：：天は自ら助くる人を助くといわずや、奮えや諸君その自助心を發揮せよ」この年、高野らにより労働組合期成会が結成される。逆戻りではなかった。「自助」の意味が変えられ、権力が弱者に押しつける物言いとなつてしまったのだ。言葉を取り戻さねばならない。「自助」が「共助」を生み、「公助」を勝ちとる。それこそ「人間の絆」である。

当面の日程

【11月】 27日(金) 10:00秋の散策 京阪電車牧野駅集合

【12月】 7日(月) 13:30謡を楽しむ会 茶臼山画廊

18日(金) 14:00第305回府高退教幹事会 退教幹事会 教育会館(カトレア)

女性サロン 良かった！

長野 邦子（南寝屋川）

特別展「無言館—遺された絵画からのメッセージ」

11月6日（金）家から寝屋川駅まで30分歩き、4つ電車を乗り継いで（六甲ライナー初乗り）アイランドセンター駅に到着。6人が集まりました。ピカピカの「神戸ゆかりの美術館」に入館。「無言館」には何回か行ったことがあります。今回の展示はみたことがない作品が多く、特に人物画、自画像（目が印象的）恋人や妹への温かいまなざしが良かった。「絵を描きたい」という思いがピンピン伝わってきました。また、44年、45年に亡くなられた方が多く、もっと早く戦争を終わらせていたらどれだけの若者が生きて帰ってきたかと怒りを覚えました。久々の展覧会、行ってよかったです。ちょっと疲れましたが・・・

狂歌三首 寺西文夫（長野）

黒川の 濁りに安倍も すみなれて いまの厳しき 世論に耐えず

世の中に 理（利）ほど大事なものはなし 答弁いふて 齟齬でねられず

デマとウソ 任命拒否 性差別 過ぎた（杉田）ことでは すまされないぞ

